

【飛騨市歴史講座】

日本書紀「飛騨国伽藍」の謎に迫る

～県文化財保護センターによる寿楽寺廃寺の調査速報！～



寿楽寺廃寺の古代瓦（寿楽寺蔵）

飛騨市古川町太江にある寿楽寺廃寺跡は、飛騨地域で最古の寺院であり、日本書紀に記述のある「飛騨国伽藍」（伽藍は今のお寺のこと）と目されています。遺跡から出土する古代の瓦は全国的に有名で、多くの研究者により取り上げられています。さらに、この県内でも重要な遺跡において、8月に岐阜県文化財保護センターが発掘調査を実施しました。今回は、寿楽寺廃寺を取り巻く全国的な研究や、県センターによる調査成果を学びます。

日 時：11月17日（土）
13時30分～15時

場 所：寿楽寺本堂

駐車場：太江農業センター

内 容：寿楽寺廃寺跡と周辺の遺跡
寿楽寺廃寺跡の発掘調査速報

参加費：無料

<お問い合わせ>
教育委員会事務局 文化振興課
☎0577-73-7496

寿楽寺廃寺跡

寿楽寺廃寺跡周辺では、古くから古代瓦が拾えることで知られていました。平成10年代の県道新設に伴う発掘調査で初めてお寺の跡が見つかり、出土した土器や瓦から飛騨で最古の寺院と考えられるようになりました。今では日本書紀に記載のある「飛騨国伽藍」の目算が大きいとされています。さらに、現在でも寺院配置や出土瓦が多くの研究で取り上げられ、日本の古代研究の話題に挙がっています。

県文化財保護センターによる調査

岐阜県では今年度より、県内の古代・中世寺院跡の調査を行っており、その一環として寿楽寺廃寺跡で8月に発掘調査を実施しました。今回は調査成果の報告とともに、**平成10年代の調査で見つかった土器や瓦の展示**も行っていただきます。

